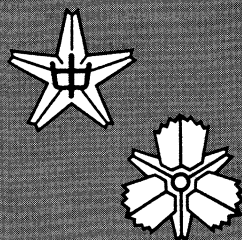




発行所

〒921
金沢市泉野出町3丁目10-10
石川県立金沢泉丘高校内
一泉同窓会
電話 (0762) 42-0211
1996. 4. 10. 発行



新役員へバトンタッチ 平成7年度一泉総会と懇親会盛大に 同窓会会則一部改訂

平成7年度の一泉同窓会総会並びに懇親会が、1995(平成7)年10月15日(日)、金沢市香林坊の金沢東急ホテルで盛大に開催された。

総会に先立ち、午後3時から泉丘高校前庭の厳霜碑前で、同窓会役員・会員有志・学校教職員等多数が参列し、物故会員の冥福を祈った。

午後6時からの総会では澁谷亮治会長が「100周年記念事業も無事終了、同窓生の協力に感謝します」と挨拶。1985(昭和60)年以来10年間の会長職を辞し、川北篤氏(一中55期・一高)が、満場一致で新会長に選任された。川北新会長は「伝統ある一泉同窓会のご指名とご賛同を頂き、重責をひしひしと感じます」と就任の挨拶。

引き続き、母校の近況報告と一泉同窓会・一泉基金の収支決算報告、また、同窓会会則の一部改訂が提案され、承認された。これにともない、新役員承認もなされた。

懇親会は、一泉合唱団による100周年記念歌「明日のI」のコーラス、川北会長の挨拶、吉田直茂氏(一中32期)の乾杯で華やかに開宴、和やかな交歓のひとつときとなった。柿ノ木太鼓のアトラクション、恒例の校歌・応援歌で盛り上がり、名残り尽きない午後9時、乙村董新副会長(一中55期)の閉会の挨拶があり、同窓会の一層の発展と再会を約して終了した。

7年度は泉丘14・15・23・33期が幹事期となつて、会の準備・運営にあたり、参加は350名。前日までに400名以上の参加申込があったものの、欠席者が多く、1986(昭和61)年に幹事制を導入して以来、初めて懇親会は赤字となった。1996(平成8)年10月15日(火)の総会と懇親会は泉丘15・16・24・34期が幹事期となる。



〈新役員紹介〉

会長 川北 篤 (一中55期・一高)

副会長

乙村 董 (一中55期) 浅香以都子 (泉丘10期)
蚊谷 八郎 (泉丘14期) 小堀 幸穂 (泉丘17期)
坪野恵美子 (泉丘19期) 岡 能久 (泉丘20期)
上山 優 (泉丘34期) 村本喜和子 (通信29期)

監事

松村 晴夫 (泉丘3期) 奥田 徹 (泉丘6期)

相談役

荒川 宏 (一中45期) 越馬 平治 (一中49期)
米谷 半平 (一中50期) 宮 太郎 (一中51期)
澁谷 亮治 (一中54期)

☆事務局長 正村 健三 (泉丘4期)

〈一泉同窓会会則〉下線部が改訂事項

第4・5・6条 本会は下記の役員を置く。

①会長 1名 本会を代表し、会務を処理する。

②副会長 若干名 会長を補佐する。

会長に事故あるときは、会長があらかじめ指名した副会長がこれを代行する。

③監事 若干名 本会の会計処理を監査する。

④相談役 若干名 会長の諮問に必ずととも
に、建議する。

役員任期は2年とする。

役員は、各期ごとに当該期を代表する正会員(以下「代表委員」という)により選出し、総会において承認を得るものとする。

☆各期の常任委員の名称は、代表委員に改称。

ごあいさつ



澁谷 亮治

(前会長・一中54期)

本年度総会におきまして、川北篤氏との会長交替をご承認頂きました。

思えば、1985（昭和60）年10月の総会におきまして宮太郎前会長から会長職をお預かりして以来、10年間にわたり、役員、各期委員、会員の皆様の温かいご支援をいただき歩んで参りました。特に100周年記念の大事業におきましては、会員の皆様の多大なご尽力をいただき、感謝の念にたえ

ません。お陰様にて100年の過去から現在へ、現在から永遠の未来にかけての有意義な連結の業を果たすことができました。28,000余の同窓の紐帯はますます強まることでしょう。

私たちの母校泉丘高校は、教育をめぐる困難な諸環境を乗り越えて、前途有為な人材を送り出しております。100周年記念事業の主目標でありました「一泉同窓会基金」は平成6年度に発足し、学校教育活動の一助となりはじめました。この基金の活用は、当面の異常な金融金利の事情もありまして十分なものとは言えません。今後一層の基金の充実を念願してやみません。

これからは、川北新会長のもと、会員相互ますます親睦を深め、発展していかれることを念じてごあいさつとさせていただきます。

泉丘高校発足50周年を 目前にして



一泉同窓会会長 川北 篤

(一中55期・一高)

100年以上の年輪を刻んだ一泉同窓会も、泉丘高校となって間もなく50年という節目を迎えようとしている。

私が金沢一中に入学する前年には、一中創立50年の記念行事が行なわれたことを思えば、月日の移り変わりを感じなくてははいられません。

この間28,000余人の卒業生を輩出し、国内外に、又実に幅広い分野に素晴らしい活躍をされている多くの同窓生がおられることを思うとき、あらためて一泉同窓会の偉大さを感じざるを得ません。

昨年10月、澁谷亮治前会長の後任としてご指名を受けてはや半年近く、その重責をひしひしと痛感するこの頃であります。

太平洋戦争が終わり、学制も改革されて金沢一中が終わり、金沢一高を経て泉丘高校が発足しましたが、それぞれの同窓会が、連繫されるべきとして合併し、1955（昭和30）年今日の一泉同窓会

が発足したわけであります。当時の泉丘高校長であった山本外吉先生の卓見と、その意向をうけて初代の一泉同窓会長になられた英安吉氏（一中18期）の母校に寄せる熱情に、心から敬意を表したいと存じます。

一泉同窓会は時代の進展に伴い、数多くの輝かしい足跡を残して参りました。

その中でも特筆すべきは、1993（平成5）年に行われた一泉創立100周年の記念事業であろうかと思えます。

各期の同窓生の皆様からは、母校に寄せる愛情の証として多くの寄付金をいただきました。

又それぞれの分野で指導的立場にあられる方々が忙しい中を集まり、記念事業に対し実に献身的な活躍をされ、その結果多彩に繰り広げられた諸事業・諸行事は天下に一泉同窓会の盛名を轟かしたものとなりました。

既に21世紀は指呼の間となりましたが、1988（平成10）年には泉丘高校発足50周年（一泉105周年）を迎えます。金沢一中卒業の各位をはじめ、同窓会全員のご理解を賜りながら、この泉丘高校発足50周年を意義あるものとするため、今後とも、いっそうのご協力をお願い申し上げる次第でございます。

人・自然・未来へつなぐ街づくり



村山建設株式会社

代表取締役社長 村山 卓治（泉丘5期）

本社 〒920 石川県金沢市鱒町102番地

TEL(0762)21-2532 FAX(0762)24-4010

